

コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ *B.t.* Cry34/35Ab1 Event DAS-59122-7、
トウモロコシ 1507 系統及びラウンドアップ・レディー・トウモロコシ NK603 系統の概要

項 目	概 要		
品 種	コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤 グルホシネート耐性トウモロコシ <i>B.t.</i> Cry34/35Ab1 Event DAS-59122-7	トウモロコシ 1507 系統	ラウンドアップ・レディー・ トウモロコシ NK603 系統
申請者	デュポン (株)	ダウ・ケミカル日本 (株)	日本モンサント (株)
開発者	Dow AgroScience LLC. Pioneer Hi-Bred International, Inc. (米国)	Mycogen Seeds/Dow AgroSciences LLC. Pioneer Hi-Bred International, Inc. (米国)	Monsanto Company (米国)
製品の概要	とうもろこしに <i>Bt(cry34Ab1</i> 及び <i>cry35Ab1)</i> 遺伝子を導入することにより、Cry34Ab1 及び Cry35Ab1 タンパク質が発現し、コウチュウ目害虫に抵抗性をもつ。また、 <i>pat</i> 遺伝子を導入することにより、PAT タンパク質が発現し、除草剤グルホシネートに耐性をもつ。	とうもろこしに <i>Bt(cry1F)</i> 遺伝子を導入することにより、Cry1F タンパク質が発現し、チョウ目害虫に抵抗性をもつ。また、 <i>pat</i> 遺伝子を導入することにより、PAT タンパク質が発現し、除草剤グルホシネートに耐性をもつ。	とうもろこしに 5-エノールピルビルシキミ酸・3-リン酸合成酵素発現遺伝子 (<i>CP4 EPSPS</i> 遺伝子) を導入することにより、CP4 EPSPS タンパク質が発現し、除草剤グリホサートに耐性をもつ。
宿 主	デント種のとうもろこし (<i>Zea mays</i> L.)	デント種のとうもろこし (<i>Zea mays</i> L.)	デント種のとうもろこし (<i>Zea mays</i> L.)
挿入遺伝子 (供与体)	・ <i>Bt(cry34Ab1</i> 及び <i>cry35Ab1)</i> 遺伝子 (<i>B. thuringiensis</i> PS149B1 株由来) ・ <i>pat</i> 遺伝子 (<i>S. viridochromogenes</i> 由来)	・ <i>Bt(cry1F)</i> 遺伝子 (<i>B. thuringiensis</i> var. <i>aizawai</i> PS811 由来) ・ <i>pat</i> 遺伝子 (<i>S. viridochromogenes</i> 由来)	<i>CP4EPSPS</i> 遺伝子 (<i>Agrobacterium</i> sp. CP4 株由来)
選択マーカー (供与体)	—	—	—
新たに獲得 された性質	コウチュウ目害虫抵抗性 除草剤グルホシネート耐性	チョウ目害虫抵抗性 除草剤グルホシネート耐性	除草剤グリホサート耐性
可食部分に発 現する遺伝子 産物の発現量	穀粒中の乾燥重量 1g あたり Cry34Ab1 タンパク質 : 49.7 μ g Cry35Ab1 タンパク質 : 0.99 μ g PAT タンパク質 : 0.06 μ g (検出限界以下)	穀粒中の乾燥重量 1g あたり Cry1F タンパク質 : 89.8 μ g PAT タンパク質 : 0.06 μ g (検出限界以下)	穀粒中の生組織重量 1g あたり、 CP4 EPSPS タンパク質 : 10.9 μ g
安全性審査を 経た旨の公表 (官報告示日)	—	平成 14 年 7 月 8 日	平成 13 年 3 月 30 日